

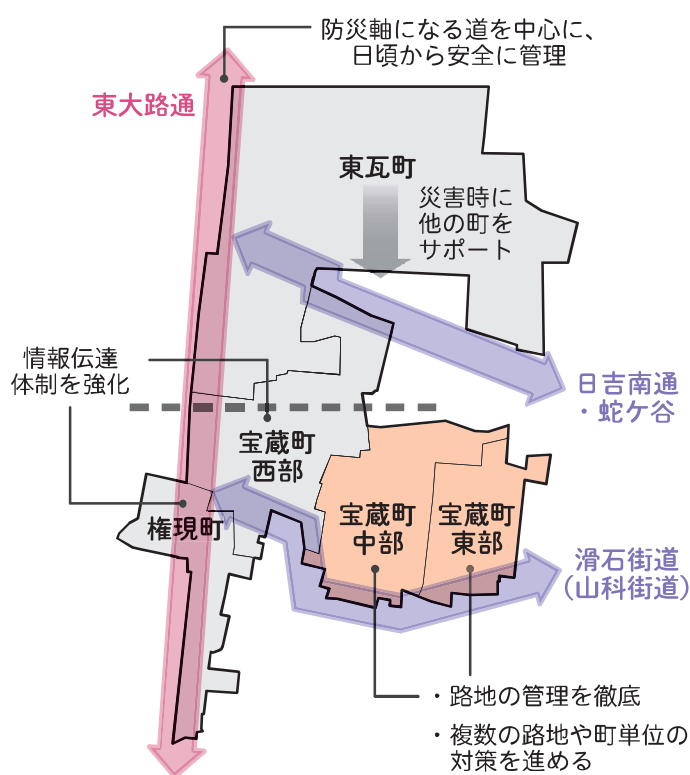
4-4-1 坂のまち今熊野の計画図

第1ブロック	(町番号)	組	世帯
1	宝蔵町西部	11	90
2	宝蔵町東部	8	68
3	宝蔵町中部	15	117
4	権現町	4	52
5	東瓦町	8	82

ブロックの地域特性

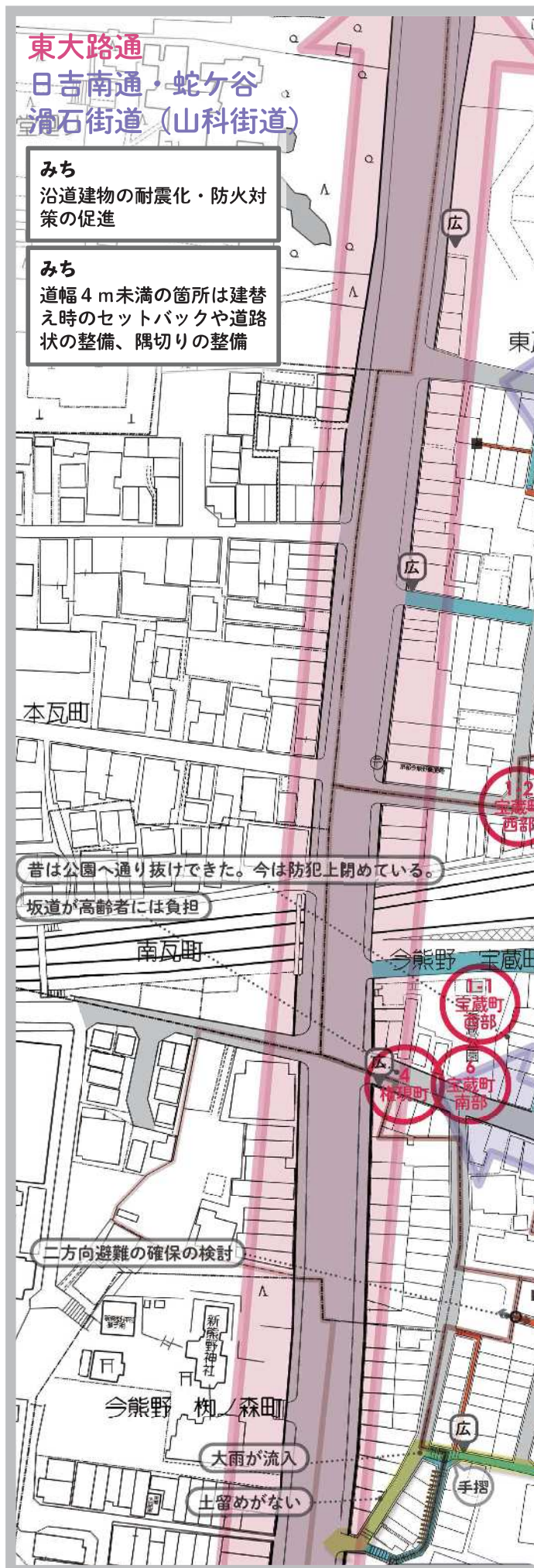
第1ブロックは、学区内でも特に細街路が多いエリアで、特に宝蔵町中部、宝蔵町東部は道幅 1.8m未満で延長の長い路地が多く、住戸密度も高いです。

進めていく対策

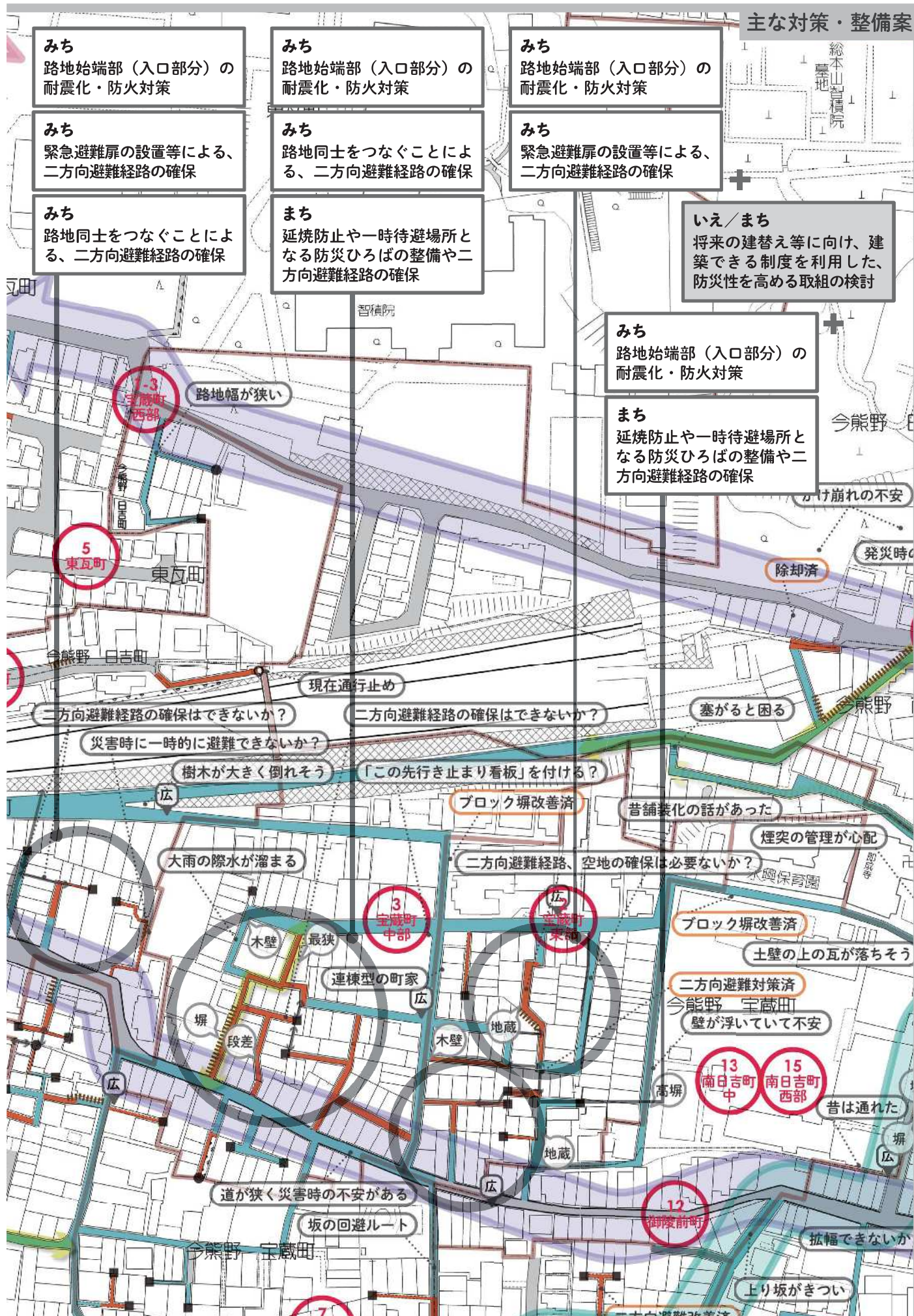


まずは災害時の避難体制を事前に検討し共有を進めます。特に、権現町、宝蔵町西部のように地形的に分断されている町もあるので、日頃からの情報伝達体制を強化していきます。

密集エリアは、路地の管理を徹底します。そして、第1ブロックは学区内でも特に細街路が多いため、物理的な整備も重点的に進めていく必要があります。特に宝蔵町中部、宝蔵町東部は、町自体の防災力を高めるため、避難できる路地の整備（路地始端部（入口部分）の耐震化・防火対策、二方向避難経路の確保など）や、一時待避できるまちの整備（防災ひろばの整備など）を、路地・町単位で話し合いながら進めていく必要があります。



主な対策・整備案



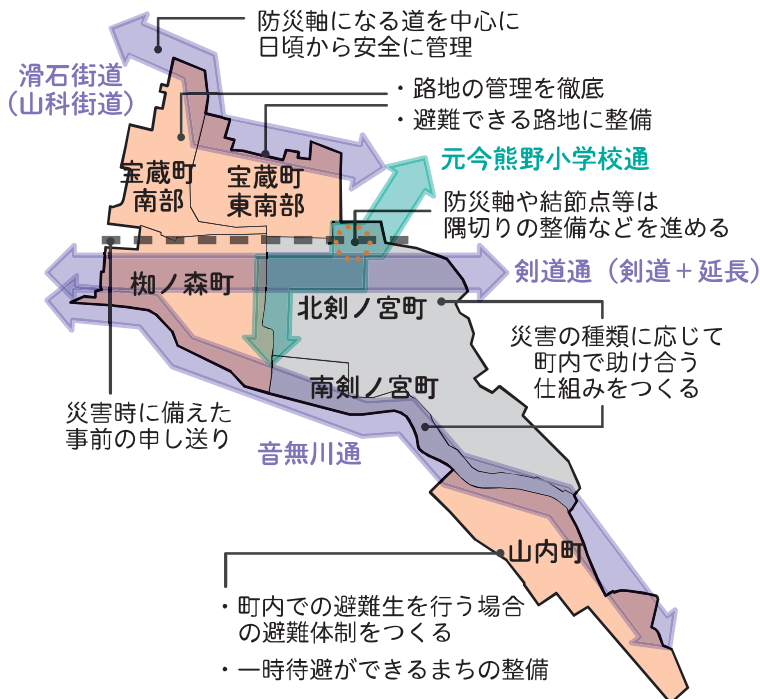
4-4-2 坂のまち 今熊野の計画図

第2ブロック	(町番号)	組	世帯
	6 宝蔵町南部	9	79
	7 宝蔵町東南部	7	50
	8 栂ノ森町	8	85
	9 北剣ノ宮町	12	118
	10 南剣ノ宮町	3	36
	11 山内町	5	29

ブロックの地域特性

第2ブロックは、エリア内の高低差が大きく、各町の地域特性も多様なエリアです。災害状況によっては、各町内に留まる避難を想定する必要があります。

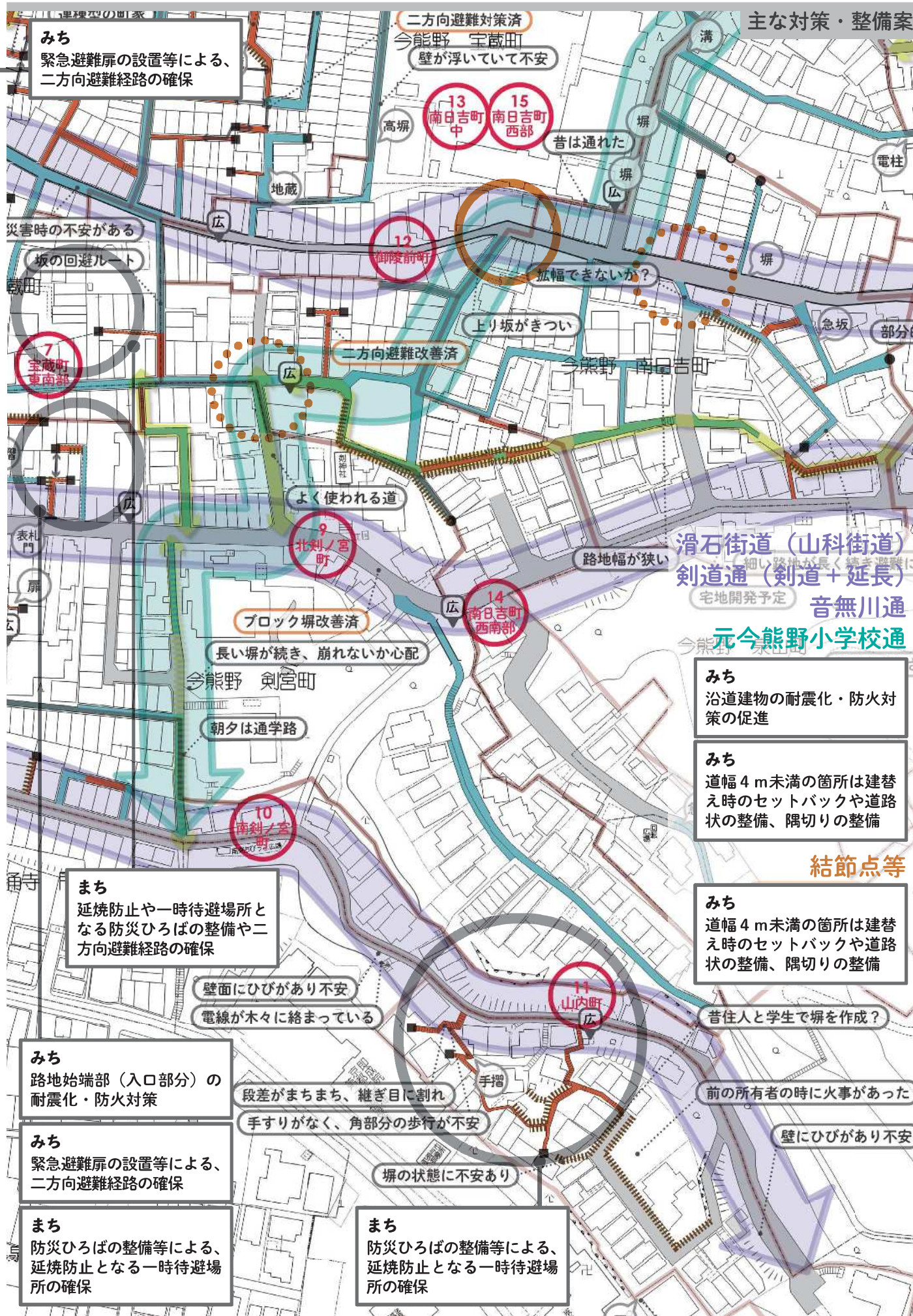
進めていく対策



災害時の避難体制を事前に検討し共有を進めます。特に、町内で地域特性が二分される北剣ノ宮町、南剣ノ宮町は、災害の種類に応じて町内で助け合う仕組みを、山内町は町内での避難生活を行う場合の避難体制を、合わせて検討します。

密集エリアは、路地の管理を徹底します。特に、宝蔵町東南部との境界に高低差がある栂ノ森町は、災害時の路地奥からの通り抜け等の事前の申し送りなども進めます。そして、避難できる路地の整備（路地始端部（入口部分）の耐震化・防火対策、二方向避難経路の確保など）や、一時待避や町内での避難生活を想定したまちの整備（空地を利用した防災ひろばの整備など）を、路地・町単位で話し合いながら進めます。





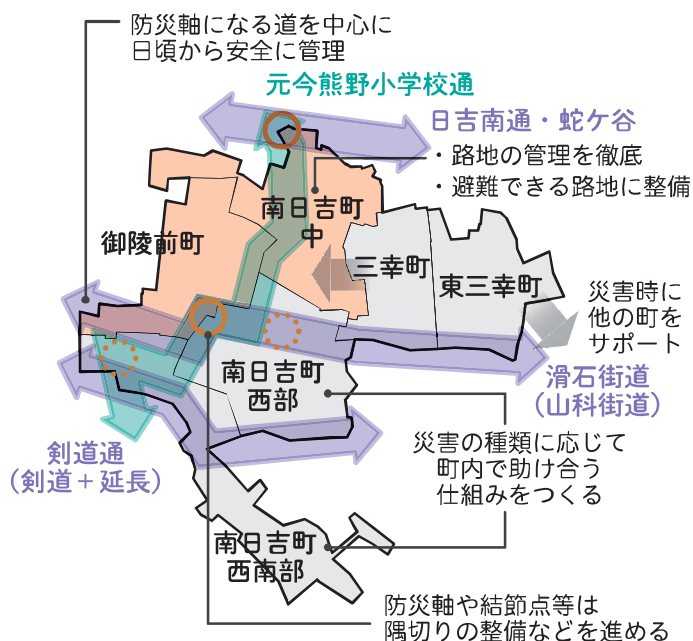
4-4-3 坂のまち 今熊野の計画図

第3ブロック	(町番号)	組	世帯
	12 御陵前町	2	28
	13 南日吉町中	9	58
	14 南日吉町西南部	7	64
	15 南日吉町西部	7	81
	16 三幸町	5	46
	17 東三幸町	6	83

ブロックの地域特性

第3ブロックは、学区中央に位置し、学区の指定避難所である元今熊野小学校が立地しています。災害時に多くの学区住民が避難するため、被害を最小限にする地域の防災対策が求められます。

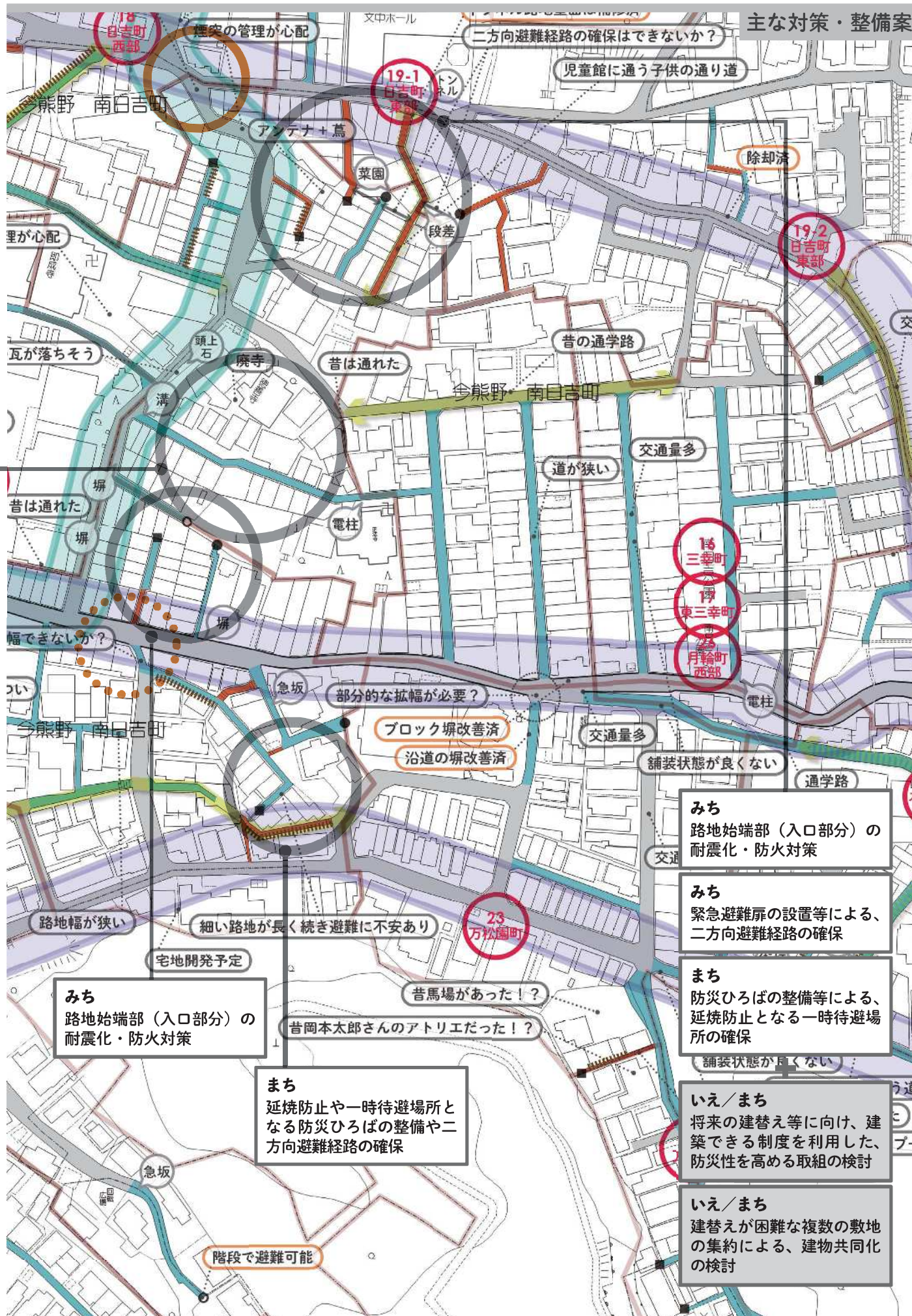
進めていく対策



災害時の避難体制を事前に検討し共有を進めます。特に、町内で地域特性が二分される南日吉町西南部は、災害の種類に応じて町内で助け合う仕組みも検討します。また、比較的危険箇所の少ない三幸町、東三幸町は、災害時に近隣の町を支える体制を検討するなど、複数の町が助け合うことでブロック全体の安全性を高める防災対策も進めます。

ブロック全体の密集度は高くないものの道幅4m未満の道は多いので、道の管理を日頃から進めます。また、道の安全性を高める整備（ブロック塀の改善など）、避難できる路地の整備（路地始端部（入口部分）の耐震化・防火対策、二方向避難経路の確保など）や、特に南日吉町中では、一時待避できるまちの整備（空地を利用した防災ひろばの整備など）を、路地・町単位（日吉町東部含む）で話し合いながら進めます。





4-4-4 坂のまち 今熊野の計画図

第	ブロック	(町番号)	組	世帯
4	18	日吉町西部	5	82
	19	日吉町東部	15	121
	20	日吉町北部	4	29
	21	新住宅町	3	20
	22	曼陀羅園町	3	19

ブロックの地域特性

第4ブロックは、新興住宅も多く、比較的災害による危険要素が少ないエリアです。しかし日吉町東部は延長の長い路地が複数あり、防災対策が必要です。

進めていく対策



曼陀羅園町以外町域が広く「交流が減り、多くが新しい住民で地域について知る機会が少ない」との声もあります。日頃からの情報交流や町内住民の把握を心掛けるとともに、安否確認、集団避難等に備えた情報伝達体制の強化など、災害時の避難体制を事前に検討し共有を進めます。特に、町内で異なる地域特性がある日吉町東部は、災害の種類に応じて町内で助け合う仕組みを、合わせて検討します。

密集エリアは、路地の管理を徹底します。特に、日吉町東部には建替えの難しい路地もあり、一部空き家も見られます。避難できる路地の整備（路地始端部（入口部分）の耐震化・防火対策、二方向避難経路の確保など）や、一時待避できるまちの整備（空地を利用した防災ひろばの整備など）を、路地・町単位（南日吉町中含む）で話し合いながら進めるとともに、路地沿道全体で一定ルールに合意のもと、建替えができる安全な路地への整備も検討します。





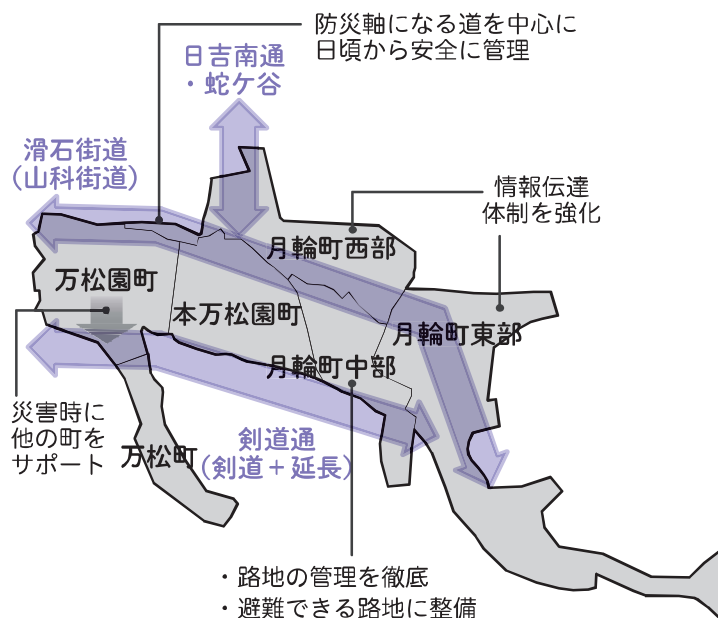
4-4-5 坂のまち 今熊野の計画図

第5ブロック	(町番号)	組	世帯
	23 万松園町	8	92
	24 本万松園町	6	56
	25 万松町	6	27
	26 月輪町西部	5	34
	27 月輪町中部	7	43
	28 月輪町東部	4	42

ブロックの地域特性

第5ブロックは、学区東端に位置し、鳥戸野陵と隣り合うエリアです。風雨による被害の方が特に懸念されますが、災害時の避難体制を決めているなど、住民が危機意識を持ち対応している町もあります。

進めていく対策



災害時の避難体制を事前に検討・共有を進めます。特に、月輪町西部や月輪町東部は、住戸間の距離がある分、情報伝達体制の強化も進めます。また、比較的危険箇所の少ない万松園町、本万松園町は、災害時に近隣の町を支える体制を検討するなど、複数の町が助け合うことでブロック全体の安全性を高める防災対策も進めます。

ブロック全体としては、空き家の管理・利活用など、良好なまちの維持向上に努めます。延長は短いものの路地が点在しているので、路地の管理を進めるとともに、避難できる路地の整備（路地始端部（入口部分）や建物の耐震化・防火対策、老朽建物の除却など）を進めます。



主な対策・整備案

